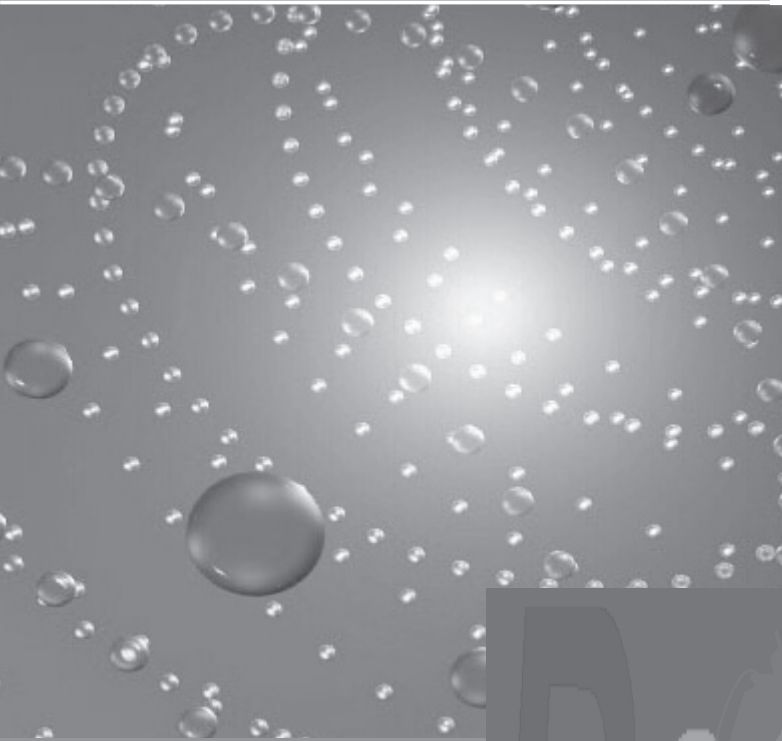


# Rescue Speciality



# あなたはダイバー118番

ベーシックレスキューコースでは意識のあるダイバーへのレスキューテクニックをマスターしました。このコースでは、意識のないダイバーへのレスキューテクニックをマスターします。

漂流などの水面でのアクシデントでは、海の110番といわれている118番の海上保安庁へ電話します。では、水中ではどうでしょう？

水中でアクシデントをおこしているダイバーのレスキューには素早い対応が必要です。水中には電話もないので、118番へ電話することもできません。

アクシデントダイバーを見つけたあなたが118番です。

この講習を修了したら、ウェットスーツの背中に大きく118をプリントしてその任務につきましょう。?!



# 認定カード

この講習を修了するとレスキュースペシャリティーカードを取得することができます。

この認定カードは、あなたがレスキューに関する基本的な知識や技術を持つことを証明することができます。

ダイビングにでかけるときには忘れずに持っていきましょう。



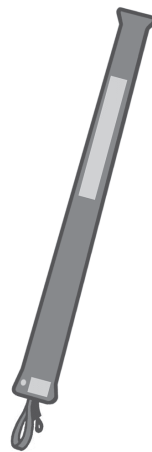
レスキュースペシャリティー  
認定カード

## ■水面で意識を失っているダイバーのレスキュー

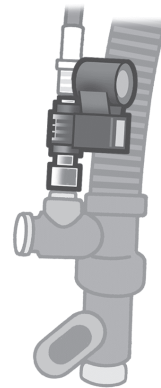
- 1.大きな声、ホイッスル、シグナルフロート、信号紅煙、手信号等で周囲のダイバーに知らせます。救急車とAEDの手配やレスキューへの協力を求めましょう。



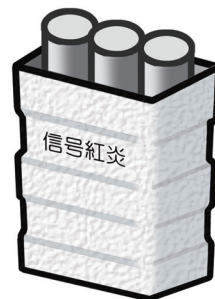
たすけて～



シグナルフロート



水中ホーン



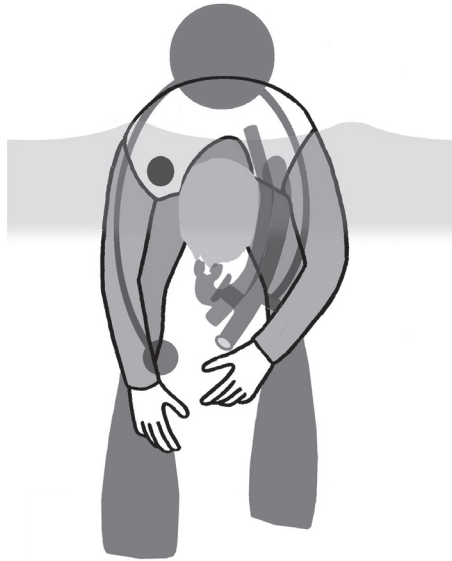
信号紅煙



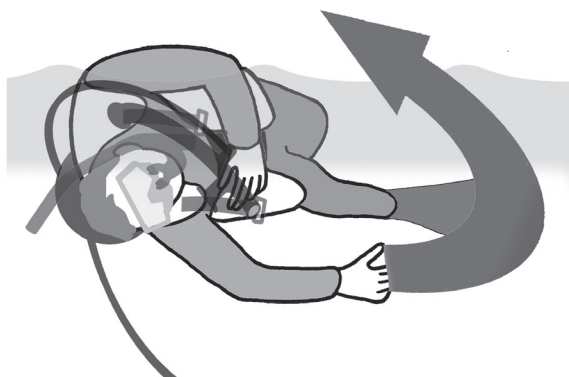
ホイッスル

2.自分のBCの浮力を確保してダイバーに近づきます。

もし、ダイバーがうつぶせになっている場合には、楽に息ができるように仰向けにして顔を上に向けさせます。



うつぶせの時は



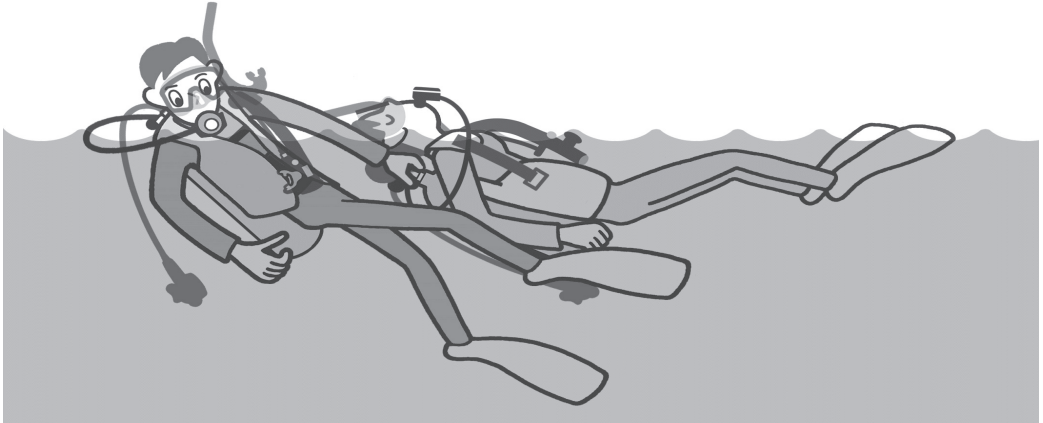
手をひっぱり仰向けにする

3.ダイバーのBCへ給気し、ウエイトベルトをリリースして浮力を確保します。

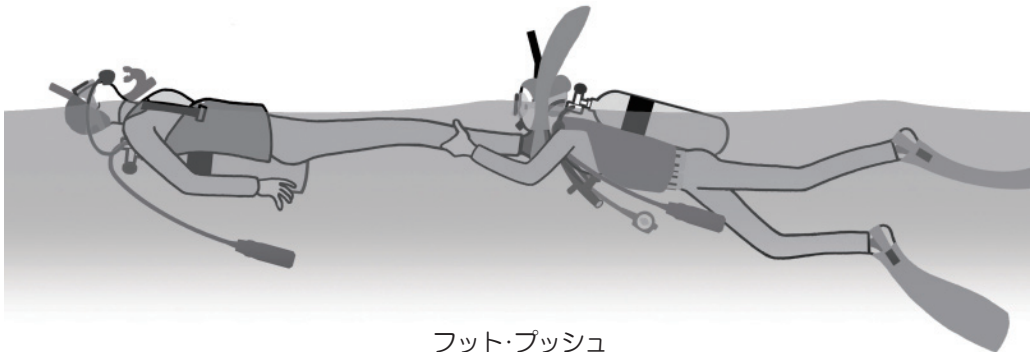
ウエイトベルトをリリースする際には下にダイバーがいないか水中の排気泡を確認しましょう。



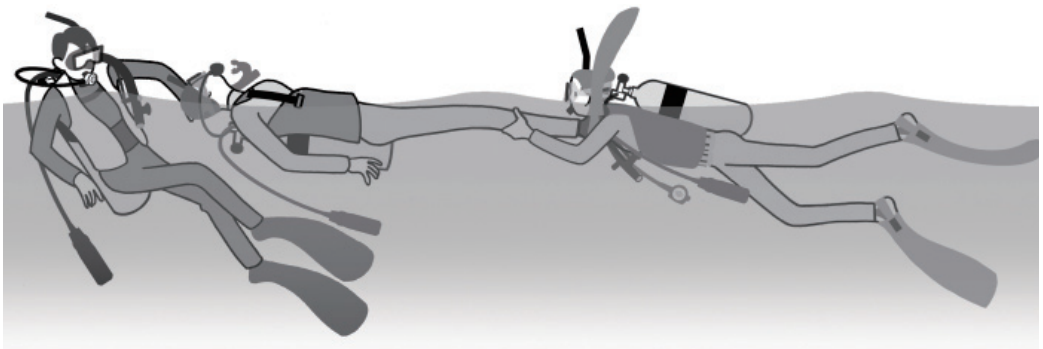
- 4.ダイバーの胸や上腹部の動きを「見て」、「普段どおりの呼吸」をしている場合には、安全な場所まで曳航します。  
バルブやBCをつかんで進行方向を背にフラッターキック（バタ足）をするか、フット・プッシュで曳航します。



フラッターキック



フット・プッシュ



フラッターキックとフット・プッシュの混合

5. ダイバーの胸や上腹部の動きを「見て」、「普段どおりの呼吸」をしていない場合には、人工呼吸をします。

ダイバーのマスク、レギュレーターやシュノーケルを取り除き、自分のマスクは首にかけてそのまま後ろに回しましょう。

ポケットマスクを使って、人工呼吸を行いながらフラッターキックで安全な場所まで曳航します。

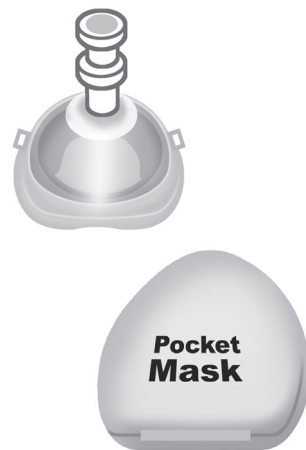
ダイバーの胸の動きを見ながら、人工呼吸が有効であることを確認しましょう。



ダイバーの胸の動きを確認



人工呼吸+フラッターキックで曳航





人工呼吸は連続した5回の吹き込みを行い、その後は5秒に1回の吹き込みを行いながらボートや陸地に向かって「2分間の曳航」をします。

「普段どおりの呼吸」をはじめた場合には、人工呼吸を中止して「普段どおりの呼吸」を確認しながら曳航をします。

「2分間の曳航」の後、ボートや陸地にあと3分間で到着できるか判断します。

あと3分間以内にボートや陸地に到着できると思われる場合、つまり、人工呼吸を開始してから5分以内にボートや陸地に到着できると思われる場合は、人工呼吸をつづけながら曳航します。

あと3分間以内にボートや陸地に到着できないと思われる場合、つまり、人工呼吸を開始してから5分以内にボートや陸地に到着できないと思われる場合は、水面での人工呼吸は中止して、できるだけ早くボートや陸地まで曳航してから人工呼吸と心臓マッサージをおこないます。

また、上手く人工呼吸ができない場合も、水面での人工呼吸は中止して、できるだけ早くボートや陸地まで曳航します。

この方法は、おぼれた人のレスキューについて世界で最も詳しい情報を発信しているヨーロッパ蘇生協議会の2010年ガイドラインによるものです。

おぼれた人ではなく、心臓の病気などによる呼吸停止時は、水面での人工呼吸は行わず、できるだけ早くボートや陸地まで曳航します。

協力者がいる場合には、フットプッシュで曳航の手助けをしてもらいます。



協力者がいる場合には手助けを頼みましょう

人工呼吸の詳しいやり方は、ファーストエイドスペシャリティコースを受講してマスターしましょう。

## ■水中で意識を失っているダイバーのレスキュー

- 1.水中ホーンで周囲のダイバーに知らせて、レスキューへの協力を求めましょう。
- 2.ダイバーの背後から近づき、左手でタンクバルブをつかみダイバーが直立になるようにします。
- 3.ダイバーのあごを右手で支え、ダイバーの顔がうなだれた状態にならないような通常の位置にします。もし、ダイバーが呼吸している場合には、ダイバーのレギュレーターやマスクが外れないように右手でやさしくホールドします。



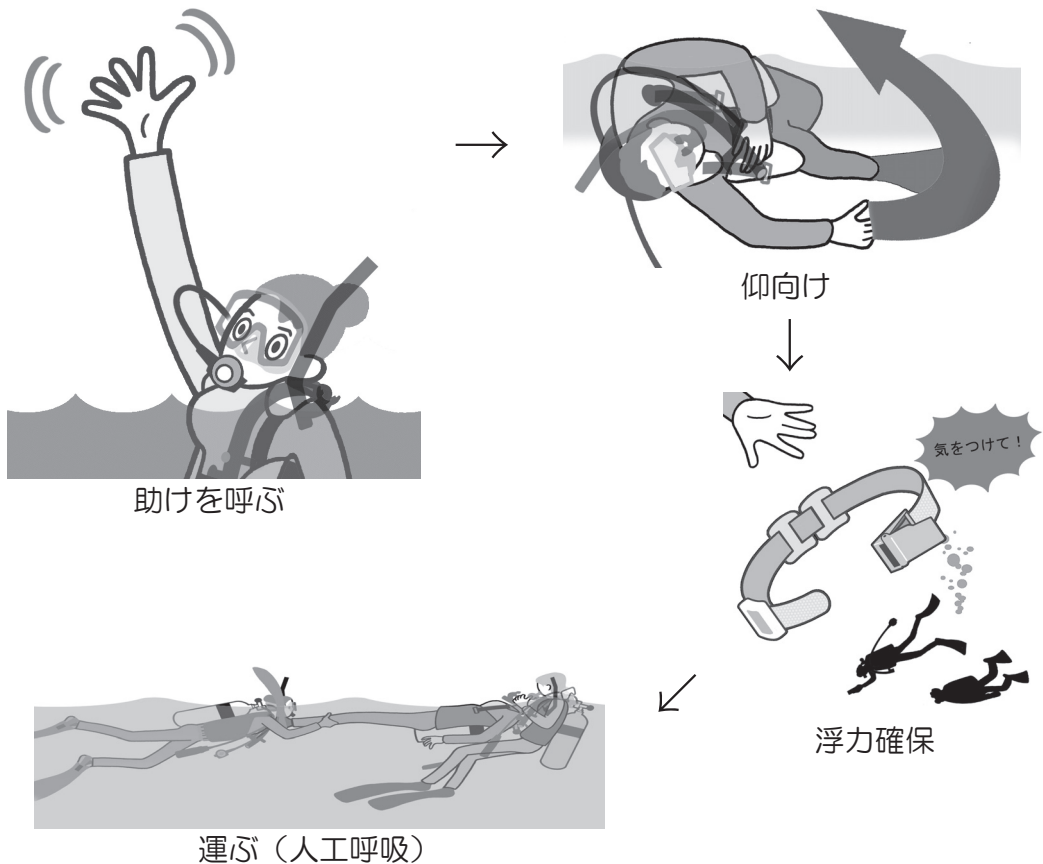
- 4.二次災害を防ぐために、安全な浮上速度を守りダイバーと共に水面まで浮上します。



5. 浮上時の浮力調整は自分のBCで行いましょう。海底で中性浮力の状態であれば、浮上中にBCの空気を排気するようにします。自分のBCだけでは適正な浮力調整が行えない場合には、ダイバーのBCも調節します。



6. 水面に到着したら、「水面で意識を失っているダイバーのレスキュー」をおこないます。



## ■海岸への引き上げ

- 1.腰の深さまでダイバーを曳航したら、自分のウエイトをはずします。  
次に自分とダイバーのBCをはずします。また、自分のフィンも脱ぎます。
- 2.バックホールドキャリアでダイバーを陸に引きあげます。  
協力者がいる場合には、ヒューマンチェーンを使いましょう。



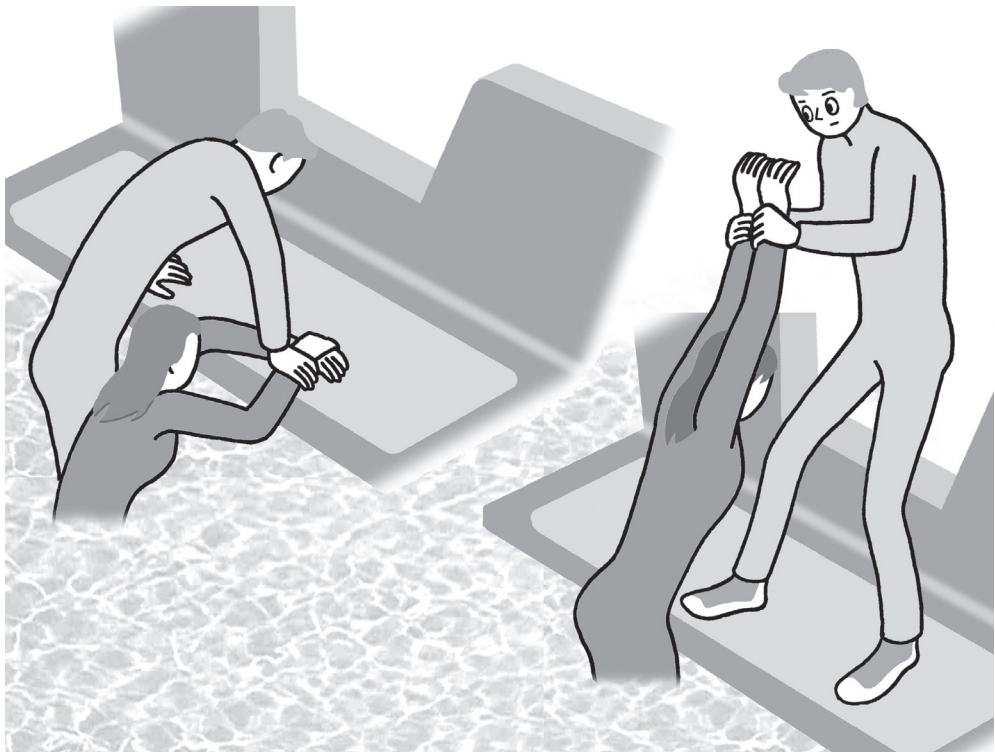
バックホールドキャリア



ヒューマンチェーン

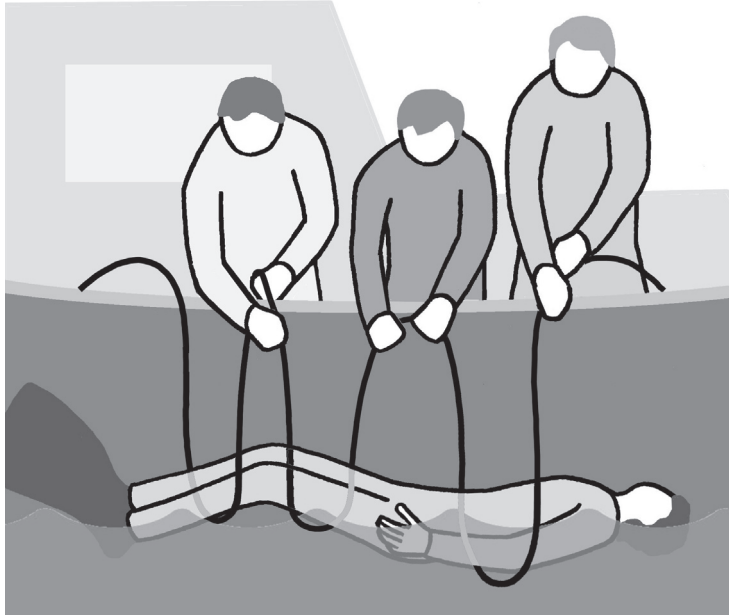
## ■ボートや段差のある場所への引き上げ

- 1.ボートに到着したら自分のウエイトをはずします。  
次に自分とダイバーのBCをはずします。また、自分のフィンも脱ぎます。
- 2.小さなボートへはストレート・アーム・リフトで引きあげます。  
ダイバーの両手を自分の片手でボートのふちに固定し、ボートに上がって引き上げます。



ストレート・アーム・リフト

3.大きなボートへはロープ・ロール・アップやラダー・キャリーで引きあげます。



ロープ・ロール・アップ

ラダー・キャリーでは足を高く上げてダイバーを落とさないようにします。抱きかかえてラダーを昇ります。



ラダー・キャリー

## ■アフターケア

- ① ボートや海岸に引き上げて、大声で助けを求めます。
- ② 119番通報とAEDの準備を周囲の人に頼みます。
- ③ 意識がない場合には、救命処置を行います。

救命処置の詳しいやり方は、ファーストエイドスペシャリティコースを受講してマスターしましょう。



心臓マッサージ：人工呼吸＝30：2

たとえ意識があっても救急隊や医師に引きつぐまではダイバーを回復体位にして様子を見ましょう。



回復体位

- 発行            スターズ本部  
                     東京都文京区本郷 2 丁目 26 番 14 号  
                     電話 03-3818-6028
- 初版発行       2011 年 7 月

※本紙掲載記事、写真、イラストの無断転載をお断りいたします。